

同窓生の 図書紹介

Paris, cet été-là
あの夏

ージャン・ピエールを探して
左子 真由美 著
(文昭46卒)



多くの人たちによってパリは絵になり、詩になり、エッセイとなった。そして今回は左子真由美さんの写真集である。
表紙はパルテノン神殿を思わせるマドレーヌ寺院が俯瞰されるパリ遠景である。

フツと手に取ってページを繰ってみる。
川がある。橋がある。教会がある。

カフェ、ブティック、駅、公園、大通り、裏通り、坂道、看板。そして人々の表情がある。

シャンゼリゼを闊歩するスキニーパンツの黒人女性、北駅で列車を待つ旅行者、マレ地区のカフェで論じる若者、セーヌ河畔の恋人たち、コンコルド橋をくぐり行く小船、小路で立ち話のムスリム女性。白いヒジャブが印象的である。

カメラは街の片隅からひっそりとパリの捉えている。視線は柔らかに控えている。

それだけに街の表情は落ち着いて様々に物語を紡ぎだしている。短編集の味わいである。

20世紀初頭の古き良きパリを引き出したウジェーヌ・アジェの写真集が思い浮かぶ。

左子さんは出版社代表、詩人、写真家である。

多忙の中、愛機ニコンD7000を携え大好きなパリに出掛けられる。穏やかで優しいそして爽やかな人柄。左子さんらしい風が吹いている小冊子である。

Elle est toujours charmante.
パリのどこかでジャン・ピエールは見つかるだろうか。
(竹林館2016年9月、
1500円+税)

森本 喬記(文昭36卒)

大阪市立大学映研OB会 創立25周年記念アルバム

発行日 2016年11月12日
発行者 大阪市立大学映研OB会
会員数20名



いて、映研OB会25年間の足跡をたどることができる。

出席者の集合写真、顔写真、講演会や音楽演奏会、モニター画面での映像観賞、個々のスピーチなどその時々々の懇親風景が懐かしい。

開催場所も大阪国際ホテル、新阪急ホテル、田中会館メタセコイア、WTCコスモタワー、天王寺都ホテルと移り、ここ数年はホテルニューオータニである。

在学当時の合宿、撮影所見学、ピクニックそして映研部室などはモノクロームでノスタルジックである。

また往年の映画ポスター、パンフレット、映画音楽レコードジャケットなどがページを飾り50年60年代の数々の映画シーンを思い出させる。

かつての映画青年の熱い思いがぎゅーしりと詰まった貴重な資料でもある。

森本 喬(文昭36卒)

大阪市立大学映研OB会例会は毎年11月第2土曜日に行われる。

平成28年第25回の例会を記念しての発行となった。

30頁カラー、ハードカバー、ケース付きの豪華記念アルバムである。

平成4年11月の第1回から28年11月の第25回までの例会写真が収められて



季刊誌『生涯青春』

—人生と企業をもっと輝かせる—



本季刊誌は、鳥居貞義氏（商昭34）が、2014年秋、傘寿の記念に元会社の後輩と共同で発刊したもので、2016年秋号でV O I・10となる。当初は、A4判2ページの季刊誌でスタートしたが、2016年春より刷新して、会員の投稿、特集の構成でA5判40ページ前後の季刊誌に成長した。2017年春号の共通テーマは、「今年を振り返る」で、益々、会員の交流ネットワークが広がることを期待している。

最後に、特別寄稿「戦争(男)と平和(女)」(2016年秋号)に寄せた鳥居氏の女性へのメッセージの一部を紹介いたします。

「女性本能は子供を守り、その為に平和を護ることにあります。全世界の女性が協力し、世界平和を作って欲しい。

い。男性はそれをサポートしなければなりません。既に国や社会のトップとして女性が活躍することが多くなっています。無意識の中で戦争の無い世界を築くには、各界に於いて女性のリーダーが求められているようです。軍国主義が台頭する中において、旅順でロシア軍と戦っている弟に向かって詠った明治の女性、与謝野晶子のような知的で勇気ある女性リーダーが求められています。(略)今こそ、この詩を全世界の人々、特に女性に訴えて世界平和の誕生に貢献して貰いたい。世界平和は男性に任せられないとの運動が起きることを期待したい。」

※与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」旅順口包圍軍の中に在る弟を歎きて あゝをとうとよ、君を泣く、君死にたまふことなかれ、末に生れし君なれば親のなさはまさりしも、親は刃をにぎらせて人を殺せとをしへしや、人を殺して死ねよとて二十四までをそだてしや。」

(生涯青春研究会・研人出版、

税込300円)

上村修三(商昭53卒)

『月刊研人』

—万人が書き、億人が読む—



本誌は、鳥居貞義氏（商昭34）が、2016年の終戦記念日に元会社の後輩と共同で創刊(季刊誌『生涯青春』の姉妹誌)したもので、「企業家・経営幹部・リーダー」を対象とした経営活動のヒントになる実践情報誌となっている。本誌編集後記で「事実と実践を基にした社会提言や実践事例の紹介を通じて、人間を研ぎ合う場」となる」と「研人」コンセプトを明確にしている。また、「万人が書き、億人が読む」とは、「万人が書きとは誰でも投稿出来る。億人が読むとは次世代に引き継ぐ」ことを意味し、ミッシヨンである。

例えば、創刊号の鳥居氏寄稿「続・平成の建白書」で、ホットなテーマに絞って「民主主義の制度疲労—投票の収斂化。民主主義はベターであり続けられるか?」九州千度地震アイデ

ア対策—輸出仕様の安全防災シエルトーの開発」地震のメカニズム解明の為の地下探査—点から面として三次元へ」契約書の認証制度—契約書にも認証制度の採用を!」護憲・改憲を言う前に「理詰めとヒラメキ」と6つの提言で、問題点の指摘ばかりでなく具体的に解決策を提言している。

最後に、鳥居氏からのメッセージを紹介しておきます。「松下幸之助社長の『継続は力なり』の教えに従って支援を続けていますが初期投資が赤字になつていきます。赤字解消の為の善後策を具体的に提案しています。投稿会員の増強と広告収入の増強が要です。」なお、本誌に関する情報については、

つぎのホームページを参照してください。
<http://www.kent-online.jp/>
(研人出版、税込400円)

上村修三(商昭53卒)